

三重県農業高等学校 同窓会通信

第21号

発行

三重県農業高等学校
同窓会松阪市嬉野川北町530
☎0598 42 1260

ごあいさつ

同窓会会長 小竹 行哉



仲秋の候、同窓会会員の皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素は同窓会活動へ格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の夏は昨年よりも暑く雨が降らない猛暑を超えた気候で生活も農作物の管理も大変で十月になっても暑さが続く異常な年でした。その様な中、米価は二十年ぶりの高値で、スーパーの棚から米が消えてマスコミは米騒動を伝え悲喜交々のニュースに触れるたびに国民にもう少し農業の現状を知っていたら、この様な騒動にならないのに、との思いを強く思うこの頃です。

昨年度から活動を再開した同窓会活動ですが、昨年十二月三日に開催された農大祭にてブースを設けて過去何期かのアルバムを置いて同窓生の方が気軽に立ち寄れる場所を提供させて頂きました。また同窓生の有志の方にはマルシェの出店をしていただいていたことがございました。お礼が遅くなりましたがこの場を借りてお礼申し上げます。同窓会ブースへ来訪された方には昔の写真を見て懐かしい思い出話に花が咲

ごあいさつ

農業大学校長 谷口 典生



同窓会の皆様におかれましては平素より本校の教育活動にご支援ご協力をお願い申し上げます。本年四月の異動で着任しました谷口と申します。微力ではありますが、日々教育活動の運営に努めている次第でございます。至らぬ点も多いかと存じますが、何なりとご指摘をいただき、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

さて、令和六年度の入校生は、二年課程は二十五名、一年課程は十名を

話題

オープンキャンパスを開催しました

二年課程、一年課程の入校希望者向けのオープンキャンパスを八月二十二日(木)、二十五日(日)に開催しました。あわせて四十名の入校希望者が、希望する専攻コースの実習や講義体験、学校説明に参加しました。

水田作専攻の水稲の調整作業、野菜専攻の露地野菜の播種、花き専攻のポット上げ、果樹専攻のブドウの収穫等、暑い中ながら、参加者は熱

迎え入れられました。一年課程は定員数を満たしましたが、二年課程は定員の三十名に足りない結果となりました。

来年度の入校生数についても、企業の高校生に対する求人好調であり、厳しい状況は続いています。そのため、県内の全高校への訪問や農業大学校見学会、オープンキャンパスに加え、ラジオ、テレビ、タウン誌、農業新聞、J A広報誌に農業大学校の取組や入学案内をアナウンスしてきました。また、SNSでの情報発信も強化しています。近年は学生の半数が非農業高校出身であることから、三重県農業大学校の存在を積極的に広報し、認知度を高めていくことが重要です。同窓会の皆様におかれましては、三重県農業大学校のPRのご協力をお願いいたします。学生募集だけでなく、入学後の学



心に説明を聞き、作業に取り組んでいました。また茶業専攻の講義体験では、淹れ方による味の違いに驚く声も聞かれました。

オープンキャンパスには各専攻の学生も実習や講義の補助として参加しています。中には、高校の先輩・後輩など顔見知りの参加者と学生が農大の学生生活についてさかんに情報交換する場面もあり、学生が入校

一年生、校内意見発表会で思いを語る

学生食堂では学生向けの昼食も出され、農業大学校の学生生活に思いをはせるきっかけとなりました。

学生が早い段階で将来ビジョンを描けるよう、農業の思いや将来の夢などを発表する意見発表会を、昨年度から一年生のカリキュラムとして組み入れています。今年の発表会を十月十一日(金)に開催。

自分の使命は最高の牛肉をつくること、急須でお茶を飲む非日常感を楽しんでもほしい、といっためざす農スタイルはもちろん、入学してから

半年間の学びや気付き、農業と出会い自身が変わるきっかけとなった恩師の言葉など、聴衆が胸を打たれる話であふれ返った発表の場となりました。

入校試験時の面接では、緊張のあまりきちんと受け答えができなかった学生も、今回の発表会では、胸を張って思いを存分に語り、質問には的確に答えており、この一年間の成長ぶりが十分にうかがえたことがとても嬉しい一日となりました。

二年生プロジェクト発表会 調査研究の成果を発表

九月二十七日(金)に二年生二十七名が一年生の時から専攻学習を通じて課題を持ち、創意工夫を生かして行ってきた調査研究成果を披露するプロジェクト発表会を開催しました。内容は、品質向上、省力化、品種の検討、施肥設計、六次産業化など多岐にわたり、どの内容も農業を行っていくうえで注目すべき課題ばかりでした。また、発表スライドの作りがどれもレベルが高く、グラフ、写真、動画をふんだんに使い、専門的な知識がなくても理解しやすいよう工夫されていました。また、みんな緊張してまでする、堂々とした発表で、質問にも的確に回答していた



のには感心させられました。一人当たり十分の発表と質疑応答を順次行い、朝九時から夕方五時までと長丁場の発表会となりました。それぞれの発表に対して、農業研究所等からの審査員十五名から鋭い質問や的確なアドバイスをいただき、ともに、採点してもらい、最優秀者を決めました。

最優秀者には一月に東海近畿ブロッコリー農業大学校学生研究発表会へ出場してもらいます。今年度の東海近畿の当番県は三重県で、各県の代表者が本校に集います。他県の農大の発表がどのようなものなのか、楽しみです。

農大マルシェ(水曜販売)を開催しています

農業大学校では毎週水曜日にマルシェを開催しています。実習で収穫した農産物を対面販売することで学生が直接消費者に接し、お客様のニーズを聞く重要な販売実習の場となっています。また、販売している農産物の品種や特徴、食べ方などお客様の質問に答えることで自分たちの育てているものの理解も深まります。

令和五年四月までコロナウィルス対策として、会員制の導入や密集防止のために少人数に区切ったの入場制限を行ってきました。行動制限が解除されてからは会員制を廃止して、どなたでも買物に来てもらえるようにしました。今年度は、学生がより幅広い消費者の声に触れられるよう、市役所の地域振興局に「農大マルシェ」のチラシを置かせてもらったり、季節の販売品目を農大ホームページに載せるなど、新規顧客の確

保にも力を入れています。さらに、来場者アンケートを実施して、より充実した「水曜販売」になるよう取り組んでいます。

各専攻コースの様子

▼茶業コースの様子

茶業専攻は、現在二年生二名、一年生は三名の計五名の少数精鋭で、チームワークを大切に頑張っています。

日々の実習は、従来通り毎朝茶業研究課(亀山)に出向き、施肥、防除、被覆などの栽培管理作業を中心に、収穫期は各茶期とも収穫・加工を実施し、その後の再製加工も実習の一環で行っています。また、収穫した茶は、商品としてパッケージを行い、水曜の販売実習にて販売しています。

機械作業の多い茶業コースですが、本年は乗用型管理機にて裾刈り作業のできる「裾刈りユニット」を導入し、省力・軽労化作業の実習が実現しました。

毎日の移動時間により実習時間は少し短縮ですが、日ごろからの実習先との調整を密にしより中身の濃い実習に心がけ、消費者に喜ばれるお茶づくりを目指しています。

▼水田作コースの様子

こんにちは、水田作専攻の杉村です。水田作では現在二年生が七名、一年生が五名、一年課程が一名の大半で実習をしています。教員は小倉先生、上田先生(機械の匠)、私を担当しています。

水田作では朝実習の説明をした

後、作業にかかります。一人で完結する作業はほとんどなく、声を掛け合い、協力して行っています。だからと言っては何ですが、二年目になると嫌でもワイワイと楽しそうにしているように思います。インスタグラムでは水田作の動画をよく投稿していますので、ぜひチェックをお願いします。

▼野菜コースの様子

野菜専攻は、二年課程十一名(一年生七名、二年生四名)、一年課程七名の計十八名で日々実習を行っています。実習では、施設野菜(トマト、キュウリ、イチゴ)を中心に、露地野菜を含め二十数品目の栽培管理、出荷調整、販売を行っています。なかでも一年課程の希望者が増加傾向にあるイチゴ部門では、今年度からハウスが二棟増設され、プロジェクト研究においても天敵利用のみならず、より多くの課題に挑戦できる体制となりました。

▼花きコースの様子

花き専攻は、二年課程二年生四名と一年生三名の計七名で実習を行っています。切花・鉢花・花壇苗・花木・観葉植物と幅広い花きについて実践的な技術や知識の習得を目指して、日々栽培管理や出荷調整、販売を行っています。最近の実習では、パンジーやビオラ、ハボタン等秋冬花壇苗の播種やポット上げを行いました。厳しい暑さが続くため、栽培管理方法を見直すとともに、学生の体調管理に努めてきました。今後は、農大祭にむけて、ドライフラワーや押し花など花きの加工に取り組みしていきます。

▼果樹コースの様子

果樹専攻は、二年課程二年生七名、一年生五名と一年課程二名で実習を行っています。最近の実習について、カンキツでは、極早生温州の収穫が十月中旬から始まっており、年末には晩生の青島温州、年明けからは中晩柑類の収穫が始まる予定です。落葉果樹では、クリやリンゴ、洋ナシなど様々な果実の収穫や力キの脱渋処理なども行いました。学生は日々、果樹栽培の難しさに苦戦しながらも、一生懸命に実習に取り組んでいます。

▼畜産コースの様子

畜産専攻は、二年課程五名(一年生一名、二年生四名)で日々実習を行っています。実習は、県畜産研究所で行っており、肉牛・酪農を中心とした家畜の飼養技術、飼料作製、機械操作等の技術を学んでいます。七月には、全国酪農青年女性会議主催の「第五十一回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待していただき、畜産専攻全員で参加しました。この大会では、全国の酪農家の代表が、日ごろの経営の成果や農場での取組等を発表していました。素晴らしい経営を行っている酪農家の方の貴重なお話を伺うことができ、良い刺激になりました。



お知らせ

学生募集

農業大学校学生募集の概要についての詳細は、三重県農業大学校ホームページをご覧ください。
<https://www.pretmie.ac.jp/notai/hp/>

養成科二年課程及び一年課程

(1) 募集する課程及び専攻コース

ア 二年課程

水田作コース、茶業コース、

野菜コース、花きコース、

果樹コース、畜産コース

イ 一年課程

水田作コース、茶業コース、

野菜コース、花きコース、

果樹コース、畜産コース

(2) 募集定員 四〇名

ア 二年課程 三〇名程度

イ 一年課程 一〇名程度

(3) 経費

授業料 年間 十一万八千八百円

その他 二年課程の二年間で百万

程度、一年課程で四十万

程度

経営のイノベーションに

チャレンジしませんか

(みえ農業版MBA養成塾)

みえ農業版MBA養成塾（以下養成塾）は七年を経過し、今年度は第八期の塾生を募集します。

設置当初は県内先進農業経営体での雇用型インターンシップと三重大学大学院との連携を特徴に、塾生の

メインターゲットを新規就農希望者としていましたが、令和四年度からは、既存の農業従事者（経営）者も対象に加え、養成塾を開講しています。養成塾では、大学教授の指導のもと、塾生が描いたビジョンをフラッシュアップし、その実現のための経営革

東海近畿地区 学生スポーツ大会

令和六年度の東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会が、五月三十日（木）、三十一日（金）の二日間、滋賀県近江八幡市で開催され、本校からは、二年生二十八名と一年生二十四名が五競技に参加しました。

バスケットボールが優勝、卓球女子シングルス・女子ダブルスが優勝、バドミントン団体の部・男子ダブルスが準優勝と大活躍！惜しくも敗れた選手もスポーツを通じ、学生同士の絆や他校との交流を深めていました。



新プランの作成を支援しています。農業経営の改革（イノベーション）に取組む一助として、養成塾を利用してはどうか。是非、農業大学校農業ビジネス人材育成課までお問い合わせください。

東海近畿スポーツ大会

大会に参加して

養成科二年 轟木 陽菜



皆さんこんにちは！スポーツ大会で関わって頂いた皆様、楽しい思い出をありがとうございました。

私が大切にしていてる考えを紹介しようと思います。それは「全力で楽しむ」「諦めない」ということです。私は滋賀県スポーツ大会に限らず、遠出をするときは必ず周辺に何があるのか、その地方の美味しそうなお店や観光地を探しており、ワクワクするような心を大事にしています。滋賀県では広大な琵琶湖を初めて見るのができ、とても心に残りました。今回も卓球に参加させて頂いて、「前回に勝負した方と会えるかな」「今回はどのような方と勝負できるかな」「どのような体育館かな」とワクワクしておりました。すると一回戦では、去年決勝戦で勝負した方と再びお会いすることができ、懐かしさ、嬉しく思いました。試合が進んでいき、兵庫県の方から話しかけ

て頂き、交流できて楽しかったです。決勝戦では、愛知県の方と試合することになり、少し焦りました。彼女は正確に素早く打つのが上手で、互角でした。高校時代の胸の高鳴りや最後まで諦めないことの大切さを感じ出して愛知県の方と試合ができたので良かったです。試合の後、話を聞いてみると、彼女は短期間の練習のみというのに驚きました。正確なコントロールを習得したことに尊敬します。来年も頑張ってください！応援しています！

ところで、私は高校三年間卓球をしていました。そのときの思い出は、定時制通信制の県大会に年に二回出場しており、メンバーも少なく最初はあまり話せなかったのですが、時間が経つにつれてワイワイ話せるようになったことや、最初の頃は初心者だったため回転がかかったボールを打ち返せなかったり違うところにボールが飛んだりしましたが、仲間から教えてもらったり大会のライバルの真似をしてみたい練習の回数を重ねていくうちに上達していったこと、一度だけ全国大会に出場できたことです。皆さんも何か一つ、諦めずに物事に取り組んでいってほしいなと思います。本当にありがとうございました！



農大生からの

メッセージ

学校生活・寮生活について

養成科一年 夏目 一



私は松阪牛を育てたい、という一心で静岡から遙々三重の地にやってきました。ここ三重県農業大学校では午前が実習、午後から授業というカリキュラムとなっており、自分のやりたいと思える農業に専念できる環境が備わっています。そんな農業大学校で私は寮生活をおくっています。私は高校でも寮生活をしてきたことから最初は家からランニングで通おうと思っていました。だがしかし、それは現実的に不可能でした。なんと私の家から農大までの道のりは片道、約百七十三kmもあるのです。この距離はフルマラソンで表すと四・一回分に相当しこれを毎日続けてしまったら猫ひろしをも凌駕してしまう脚力と肺活量を手に入れてしまおうと思い、日々寮生活を送ることを決めました。

寮生活初日、私はとてもつもないホームシックに見舞われました。親、地元の友達、おじいちゃん、おばあちゃんや気軽に会えなくなると考えると寂しいあまりでした。もちろん農大には友達がいないところからスタートしました。そんななかで生活を共にしたり、敷地内にある体育館でスポーツをしたりしていくなかで同級生や先輩との横のつながりが増えていき、今では多くの友達ができて、楽しく生活を送れています。東海近

